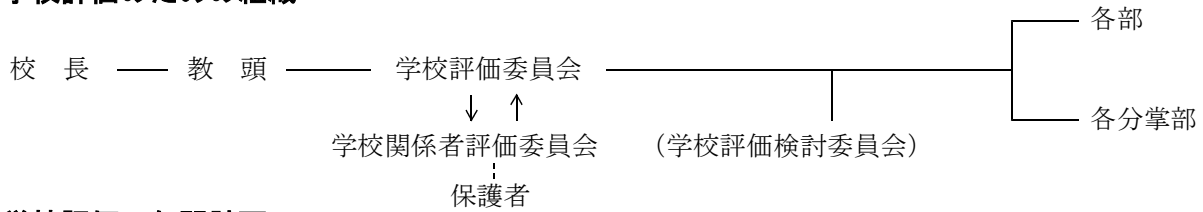


8 学 校 評 価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> 部、分掌の重点目標の確認・検討（部会、分掌部会） 【第1回学校評価委員会】重点目標、具体的方策、留意事項、評価方法の検討、確認 ホームページで情報公開（情報図書部） PTA総会に配布
11月	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート項目の検討 【第2回学校評価委員会】外部評価（保護者）アンケート項目の検討、内部評価（生徒、教員）評価方法の確認
1月	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価アンケート、内部評価の実施 アンケート集計表作成
2月	<ul style="list-style-type: none"> 部、分掌で結果を考察（部会、分掌部会） 【第3回学校評価委員会】アンケート集計結果の考察 P T A委員会で報告 校長による平成31年度の重点目標の宣言 校長の宣言を受けて部、分掌の重点目標、具体的方策、留意事項、評価方法の検討
3月	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へアンケート結果の公表 【第4回学校評価委員会】31年度年間計画の作成、31年度学校評価の作成 学校関係者評価委員会

※ 学校評価検討委員会を必要に応じて開催する。（校長、教頭、事務長、部主事、分掌主任）

(3) 本年度の学校評価

今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①幼児児童生徒の発達段階と障害特性に応じた専門性の高い指導・支援を実践する。 ②保護者や地域、関係機関等との連携を強化し、安全で安心できる教育環境の整備を推進する。 ③自立と社会参加に向けた組織的、系統的なキャリア教育を推進する。 ④教育活動の一層の充実に向けて業務改善と精選に取り組む。 		
項(档)	重点目標	具体的方策	留意事項
幼稚部	身近な人と関わる中で、経験したことを伝えたり、聞いたことを伝えたり、伝え合いを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友達と言葉を交わすことができる雰囲気や関係の中で、伝えたいような体験ができるような環境を工夫する。 遊びを一緒に進めるために相手の気持ちや行動を理解するよう言葉掛けを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の状況に応じて、気持ちを言葉にしたり付け加えたりなどして、幼児同士の話が伝わり合うように支援する。 絵本や歌、絵日記などで豊かな言葉やいろいろな表現に触れられるようにする。
小学部	社会常識や礼儀を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識向上のために、交流及び共同学習、校外での社会体験的活動等の場面に活用する。 懇談や学級通信等を通して、家庭との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害特性や発達段階に応じた指導を行う。 家庭との連携を密にし、児童の成果や課題を部全体で共有し、指導を行う。
中学部	中学生としての自覚を促し、学びの態度の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学級会で毎月の授業目標を決定することで、基本的な授業規律を重視し、前向きな姿勢で授業に取り組めるようにする。 目標を見やすい場所に掲示することで、授業者が共通の指導意識をもって指導を継続できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が話し合っつて月の目標を決め、週末毎に学級及び個々に振り返る機会をもつ。 全職員で目標や取組の状況を確認してきちんと取り組んでいる点を評価し、生徒が達成感をもてるようにする。
高等部	卒業後の生活を見据え、挨拶を基本とした社会性や学ぶ姿勢の基礎を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活全般を進路指導と捉え、挨拶・マナー指導及び学習指導を行い、定期的に評価を行いながら改善に努める。 生徒の課題提出状況や考査の結果等の学習状況について高等部の全職員及び家庭が情報を共有し、学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業や施設、大学などから得た情報を生徒のニーズに合わせて具体的に生徒及び保護者に提示する。 進路実現に向けた課題やその解決に向けての方策を生徒、保護者、学校が話し合いの基で共有できるようにする。
総務部	幼児児童生徒、保護者などへの学校活動等の情報発信の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物の内容を精選し、掲示場所、掲示期間などの更新を適宜行い、幼児児童生徒が情報を得られるような掲示の仕方を工夫する。 学校の取り組みに関わる掲示を強調するなど、最新の学校の状況が伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員や幼児児童生徒が目ししやすい場所に、伝えたい情報とみる人が知りたと思われる情報を検討しながら掲示する。行事写真や行事の紹介記事等を適時掲示する。
教務部	学習内容の理解と定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で、前時までの学習内容の振り返りや本時の目標を明確に伝えることができる工夫をする。 授業の整理（まとめ）で、本時の学習内容の理解を確認することができるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害特性や発達段階等、個々の実態に応じた発問や教材等を提示する。
生徒指導部	いじめがなく思いやりのある人間関係の育成を図る。 災害時に主体的に行動する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なアンケート調査、相談を実施し、いじめ防止の意識を高める。 防災、災害安全の学習を充実し、訓練を非公開での実施など工夫をすることで、児童生徒が自ら考え、命を守る行動を身に付ける、 	<ul style="list-style-type: none"> いじめのみに特化せず、生活全般の調査を実施し、幼児児童生徒の小さな変化やサインを見逃さないよう留意する。 防災訓練の事前学習で自分の行動を考え、事後指導で行動を振り返り、命を守る行動を身に付けることにつなげる。

保健体育部	心身共に健康的な生活を送るための意識の向上を図る。 学校美化活動の充実を図る。	・保健日よりや食育日より、部朝会等を活用し、健康に関する知識を広める。 ・日常の清掃活動を通して、学習環境を整える。 ・美化活動の取組状況を、保健日よりや集会等を活用して発信する。	・障害特性や発達段階に応じた支援ができるよう、各たよりを活用した情報の発信、職員間の連携を密にした情報の共有に務める。 ・各部のよい取組を知ることで、学校全体で協力しようとする意識の向上につなげる。
進路指導部	幼児児童生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の推進を図る。	・進路に関する情報を発信し、全体・個別指導を通して、生徒や保護者が必要な情報を選択できるような支援する。 ・職員同士や家庭、関係機関との連携を密にしながらか情報を共有する。	・幼児児童生徒の発達段階や障害特性に合った情報や新しい制度に関する情報を積極的に収集し、発信する。 ・得た情報を職員間で共有するとともに、研修などを通して、日々の指導に生かせるようにする。
自立活動支援部	幼児児童生徒の自立を目指し、自立活動における授業内容の充実を図る。	・自立活動研修会を設定し、聾学校で必要な自立活動に関する内容を取り上げる。 ・自活日より「でんでんむし」や掲示等で自立活動に関する情報を発信する。	・研修内容によって全体研修と任意研修に分け、幅広く研修を受講できるようにする。 ・授業で活用できるような内容を収集し、紙面や掲示の方法を工夫する。
研究研修部	授業研究の充実に努め、授業における技量を高める。	・部や研究グループに分かれ、話し合いや情報交換を行うことで、授業改善に生かす。 ・全員が2年に1回研究授業、授業検討会を行うよう推進する。	・各部、研究グループで、幼児児童生徒の実態把握、授業の目標とその手だて、授業展開などを話し合い、授業実践を行う。 ・授業検討会での話し合いを深められるようにするために、授業の視点を示す。
情報図書部	情報機器を活用できるスキルを高め授業等に生かす。 読書啓発運動を推進する。	・職員のニーズにあった情報視聴覚だよりを発行したり、研修会を開いたりして、機器活用に関する情報を発信する。 ・児童生徒が興味をもてる読書週間のテーマの設定、図書館だよりを発行して本に興味をもち、図書室へ足を運ぶように啓発する。	・外部で受講した研修報告を含め、現職研修の内容を厳選する。授業や校務に生かせる知識や技術の情報を分かりやすく提供する。 ・各部の実情に合わせた読書週間を実施する。新着本に興味をもてるよう、読書週間のテーマに合わせたり、児童生徒職員から希望を募ったりする。
センタ一的機能部	関係諸機関（地域の学校、幼稚園・保育園、市町役場、医療・保健センター）や保護者との連携を深め、支援の充実を図る。	情報交換の機会を可能な限り設定したり資料を活用したりして、支援の充実を図る。	・相談に具体的に対応できるように研修を積み、専門性を高めたり、資料を刷新したりして支援の維持と充実を図る。 ・指導記録や保護者懇談を通じて情報交換につとめ連携を密に行うようにする。
寮務部	自分から進んで挨拶ができ、正しい言葉遣いで報告やお礼を言える舎生を育てる。	・舎生一人一人の個別の目標を設定し、指導を進める。 ・舎生会を通して、挨拶や正しい言葉遣いに対する意識を高め、舎生が自分から報告やお礼を言う雰囲気をつくる。	・集団での指導とともに、個別での指導を行う。舎生一人一人の目標と具体的な指導方針を明確にする。 ・舎生会において、舎生が自分の挨拶や言葉遣いについて、考える機会を設ける。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①幼児児童生徒の発達段階と障害特性に応じた専門性の高い指導・支援を実践することができたか。 ②保護者や地域、関係機関等との連携を強化し、安全で安心できる教育環境を整備することができたか。 ③自立と社会参加に向けた組織的、系統的なキャリア教育を推進することができたか。 ④教育活動の一層の充実に向けて業務改善と精選に取り組むことができたか。		

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	①幼児児童生徒一人一人の障害特性に応じて、専門性の高い指導・支援を推進する。 ②保護者や地域、関係機関等との連携を一層強化し、教育力の向上を図る。 ③発達段階に応じて、組織的・系統的なキャリア教育を推進する。 ④教職員一人一人が心身共に健康な状態で子どもたちに向き合うことができるよう、業務内容の見直し・精選を図る。		
題(档)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼稚部	身近な人に親しみを持ち、友達や先生と楽しく活動する中で、自分から積極的に人と関わる力を養う。	・イメージを共有する楽しさを知らせ、友達や先生とのやりとりをする場面を多く設定する。 ・遊びの環境や幼児への言葉掛けを工夫することで、人と関わることの楽しさや大切さを知らせていく。	保護者からは子どもたちが楽しく学校に通い活動していると高評価をもらった。また、遊びや活動の環境を整え、言葉掛けを工夫することで自分から人と関わるようになってきた。日々の活動や研究授業を通して共通理解の素実践することができた。今後も関わりの楽しさを経験を通して知らせていく。
小学部	社会常識や礼儀を身に付ける。	・挨拶等のマナーや集団行動に必要なルールを身に付けるために、行事や交流及び共同学習、校外学習等の場面を有効に活用する。 ・懇談や学級通信等を通して、家庭との連携を密にする。	規範意識の向上については職員・保護者ともに昨年度と比べて高評価になった。今後も家庭との連携をとり、より一層の児童の規範意識の向上を目指していく。
中学部	中学生としての自覚を促し、学びの態度の向上を図る。	・基本的な授業規律を重視し、授業に前向きな姿勢で取り組めるようにする。 ・学級会で月目標を決定する。 ・生徒が目標と振り返りの掲示物を作成して掲示する。	授業規律の向上を目指した取組を続けており、生徒の授業態度の改善が感じられつつある。昨年度と比べて保護者や生徒の「授業の分かりやすさ」の評価が大変高くなっていることから、取組を継続して更に学びの態度を向上させていく。
高等部	卒業後の生活を見据え、挨拶を基本とした社会性や学ぶ姿勢の基礎を培う。	・日常生活全般を通じて挨拶やマナー指導を行い、定期的に評価を行うことで改善に努められるようにする。 ・生徒の課題提出状況や授業態度などの学習状況について高等部の全職員及び家庭が情報を共有し、学習習慣の定着を図る。	挨拶を基本とした社会性の育成や学習習慣の定着を図る指導に重点を置いた結果、生徒一人一人の意識を高めることができた。進路指導においては、生徒や保護者の心情をよく理解し、現状と課題を説明するとともに心のケアも含め丁寧に進めていく。
総務部	幼児児童生徒、保護者などへの学校活動等の情報発信の充実を図る。	・掲示物の内容、掲示場所、掲示期間などの更新を適宜行い、見る人に分かりやすい掲示をするように職員に伝える。 ・幼児児童生徒に対する掲示物を活用した指導や、保護者等に向け掲示による情報発信を行う。	掲示場所を精選し、職員や幼児児童生徒に役立つ情報の発信をすることができたが、幼児児童生徒が活用しているかどうかの観点では、まだ足りないと思われる職員も多い。今後も、学校関係の情報や聴覚障害に関わる情報など掲示環境を整え、活用の場をつくっていく。

教務部	学習内容の理解と定着を図る。	・授業の導入で、前時までの学習内容の振り返りや本時の目標を明確に伝えることができる工夫をする。 ・授業の整理(まとめ)で、本時の学習内容の理解を確認することができるように工夫する。	授業の中で本時の目標を分かりやすく示すことで、多くの幼児児童生徒が見通しをもち、意欲的に学習や活動に取り組むことができた。学習内容の理解がより進むように、個に応じた振り返りの方法を模索する必要がある。
生徒指導部	いじめがなく思いやりのある人間関係の育成を図る。 災害時に主体的に行動する意識を高める。	・定期的なアンケート調査、相談を実施し、いじめ防止の意識を高める。 ・防災、災害安全の学習を充実し、訓練の非公開実施など工夫することで、児童生徒が自ら考え、命を守る行動を身に付けられるようにする。	アンケート調査や児童生徒主体の活動によって、いじめ防止の意識が高まった。来年度も児童生徒の防災学習の充実による主体的に行動する意識の向上、調査や相談によるいじめ防止の意識の向上を図る。緊急地震速報訓練の定期的な実施、訓練の非公開実施などによって、災害時の行動を具体的に考え、訓練に生かすことができた児童生徒が多く見られた。
保健体育部	心身共に健康的な生活を送るための意識の向上を図る。 学校美化活動の充実を図る。	・保健だよりや食育だより、部朝会等を活用し、健康に関する知識を広める。 ・日常の清掃活動を通して、学習環境を整える。 ・美化活動の取組状況を、保健だよりや集会等を活用して発信する。	配布文書や集団指導の場を通じて健康管理の必要性に対する意識は高まった。また、外傷による受診件数も大幅に減った。今後も健康安全のための具体的方策を伝え、健康に関する知識の獲得を図る。
進路指導部	幼児児童生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の推進を図る。	・進路だよりや進路講話など、進路に関する情報を発信する機会を増やす。 ・担任や家庭、関係機関との連携を密にする。	昨年度よりも進路だよりの発行回数を増やし、より多くの関係機関と連携することができた。今後は、関係機関から得た情報を校内の研修等で共有し、各部の進路指導に生かす。
自立活動支援部	幼児児童生徒の自立を目指し、自立活動における授業内容の充実を図る。	・自立活動研修会を設定し、聾学校で必要な自立活動に関する内容を取り上げる。 ・自活だより「でんでんむし」や掲示等で自立活動に関する情報を発信する。	全体研修、聾学校経験3年未満研修、部別研修など、それぞれのニーズに合わせた研修を設定することができた。自立部だよりや校内の掲示板を有効的に活用し、子どもや保護者、教職員に対して適切な情報を提供することができた。今後も紙面や掲示の工夫を図りながら情報提供を行っていく。
研究研修部	幼児児童生徒の生きる力の育成を目指して、校内研究や現職研修の充実を図る。	・研究の充実を図るため、年8回の校内研究の時間を設ける。 ・研究授業や授業検討会を通して、実践的な研究を進める。 ・ニーズに合わせた現職研修を設定する	それぞれの研究班で研究授業や授業参観などを実施し、検討会をすることで、実践を深めることができた。また、2年間の実践内容をまとめ実践集を作成することができた。研究成果と課題を今後の幼児児童生徒の指導・支援に生かしていく。
情報図書部	情報機器を活用できるスキルを高め授業等に生かす。 読書啓発運動を推進する。	・情報視聴覚だよりを通して機器活用に関する情報を発信する。職員のニーズにあった研修会を開く。 ・児童生徒が興味をもてる読書週間のテーマの設定、図書館だよりを発行して本に興味をもち、図書室を利用するように啓発する。	機器の活用について便りや掲示板で提示したり、研修で話したりすることで、情報提供することができた。今後も流行を踏まえた情報提供に心がける。読書の啓発運動をさらに推進できるように、図書委員会の活動の充実を図る。
センター的機能部	関係諸機関(地域の学校、幼稚園・保育園、市町役場、医療・保健センター)や保護者との連携を深め、支援の充実を図る。	情報交換の機会を可能な限り設定したり、資料を活用したりして支援の維持と充実を図る。	通級指導では、指導対象児童生徒の在籍校の先生方や保護者に対して分かりやすく情報提供をすることができた。乳幼児教育相談も保護者に対して分かりやすく情報提供することができた。今後は連携を密にして直面する問題やニーズに応じた情報提供ができるようにさらなる向上を目指す。
寮務部	自分から進んで挨拶ができ、正しい言葉遣いで報告やお礼を言える舎生を育てる。	・週間日課表を用いて、挨拶や言葉遣いについて毎日自己評価をすることで、意欲や意識を高める。 ・舎生会を通して、挨拶や正しい言葉遣いに対する意識を高め、舎生が自分から報告やお礼を言う雰囲気をつくる。	・舎生会や週間日課表を通して指導をした結果、昨年と比べて「正しい言葉遣いで報告やお礼が言える」と答えた舎生が増えた。挨拶については、あまりできていないと答えた舎生の割合が35%いた。挨拶についての意識が高めるように、引き続き指導をしていく。
総合評価	今年度も98%の保護者から回答をいただいた。内容は昨年度と変更はないが、より分かりやすい表現に努め、どの項目も概ね高い評価をいただいている。特に、安心・安全な学校づくりや授業公開、PTA活動の項目では特に高い評価をいただいた。一方で、いじめへの取組や子どもたちの理解については、現状ではまだ不足していると考えられる保護者が多いことが分かった。今後も学校の取組について保護者にきちんと周知し、各部や分掌の課題と合わせ、次年度の指導に生かしていく。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	①積極的に情報発信を行い、保護者や地域、関係諸機関等との連携を深めることができたか。 ②教職員一人一人が心身共に健康な状態で子どもたちに向き合うことができたか。
自己評価結果について	家庭との連携を大切にしていると思っている学校側と、連携が不十分であると感じている保護者側と、感じ方にずれがあった。
今後の改善方策について	・幼児児童生徒一人一人の気持ちをくみ取り、丁寧にに応じていく。相談の機会を積極的に設ける。 ・学級だよりや連絡帳、電話等で学校での様子や取組状況をきちんと保護者に伝える。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	・丁寧な対応は必要だが、見通しをもって具体的な対応策を考えていく必要がある。 ・保護者と向き合い、話し合うことで保護者の価値観と学校の価値観のすり合わせができる。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	(構成)西三河聴覚障害者親の会会長、同窓会長、地区総代、学識経験者、校長、教頭、事務長、部主事 (評価時期)年間通してのまとめを3学期に行う。

(5) 経営管理上の問題点等

- ア 聴覚障害教育だけでなく特別支援学校としての専門性の向上のため人材育成、校内研修を推進していく。
- イ 聾幼児教育相談事業の一層の充実を図っていく。
- ウ 日本語力・学力向上に向けた指導方法の充実を図っていく。
- エ 多様なニーズに応じた進路指導を充実させていく。
- オ 障害の重度化、多様化に応じた指導内容・方法の改善と工夫に努める。
- カ 学校全体で課題に取り組むとともに、外部の力を積極的に活用し、教育効果を高めていく。